

「子どもが育つ環境としてのまち」を調査しています

准教授 高山静子



各自の文献調査の結果をグループで発表しあう



子ども支援学専攻では、子ども支援の専門家となるために、1年次から4年次までかけて「子ども支援学演習」という少人数のクラスやゼミで演習に取り組みます。子ども支援や虐待の防止には、子どもや保護者を理解するだけでなく、家庭や地域の環境を理解することが大切です。

1年生の高山クラスでは、「子どもが育つ環境としての地域」をテーマに、個人での文献調査を行い、その後にグループで大学周辺の地域のフィールドワークに出かけました。調査課題は、子どもにとっての地域の社会資源（人、自然、物等）と問題点です。

近隣の公園めぐりを中心に選んだグループ、駅前の道路状況を調べるグループと、各グループで計画を立てて出発です。黒目川沿いの調査を行ったグループでは、散歩中の保護者に話しかけると、「朝霞台駅にはエスカレーターがなくベビーカーの移動が大変」と教えていただきました。「何をしているの?」、「ここにはこんな場所があるよ、行ってごらん」と声をかけてくださった地域の皆さんとも出会えたようです。

演習科目では、グループでの意見交換や製作、発表などを通して、子どもと保護者を支援するために必要なコミュニケーション能力や、チームで仕事をする力、プレゼンテーション能力等を高めていきます。

担当する教員は、入学してわずか二か月で、それぞれが力を発揮し仲間と助け合う様子に感心し、これからの4年間でそれぞれの学生が素晴らしく成長した姿を見せてくれることを期待しています。